

「ネットボール」の単元では、必要な練習やグループの実態に応じた作戦を考え、グループを成長させることを単元のゴールとしました。第6～8時では、自分で考えること、友達とともに考えることができるように、「学びを振り返り、次の学びに生かす」（調整）、「対話や端末活用を通して、意見や考えを交流する」（協働）場面を仕組みました。



ゴール下で4対3の練習を行う児童



学習計画へ



作戦ボードで動き方を確認する児童

【学びを振り返り、次の学びに生かす】

Aグループは、前時までにパスが上達し、グループノートに「シュート場面までいけるようになった」と記入していました。しかし、シュートが決まらないという課題を感じ、「ゴールの近くでパスをもらう」とめあてを修正し、「ゴール下でのシュート」と「4対3」の練習が必要だと考えました。「4対3」の練習後の振り返りでは、同じ場所でパスを出すことで相手に読まれ、パスカットされることに気づき、次時では「パスの起点を左右に分ける」とめあてを再修正しました。

【対話や端末活用等を通して、意見や考え等を交流する】

ゲームのハーフタイムや振り返りの時間には、どのように動くべきか、どのような修正が必要かを話し合いました。Aグループの児童Bは、端末で撮影した動画をもとに質問や相談をしながら動きを確認していました。丁寧なアドバイスを受けたことで、次のゲームではフリーになってボールを受け、シュートを決めることができました。成し遂げた喜びをグループ全員で共有することができました。

教師の働きかけ

単元の前半が終わった段階で、グループノートにグループの強みや後半のめあてを記入させました。それらを確認させることで、練習方法や作戦をグループで考えることにつなげました。

自分たちで練習を考えられるよう、単元前半に様々な攻め方につながる練習を提示しました。

1時間の中で、必ず2回はグループで話し合う場を設けることで、グループのよい点や課題を確認し、修正する機会としました。

端末を積極的に活用させることで、ハーフタイムには、動画を見ながら作戦ボードを用い、よりよい作戦を考えられるようになりました。

自分やグループのよい点や課題を明確にさせるためにグループノートを活用したことで、ノートの振り返りを生かした作戦や課題克服のための練習方法を自分たちで考え、実践することができました。

毎時間、振り返りを行い、話し合いの場を設定したことで、よかった点や課題を次時の作戦立案につなげていく姿が見られました。

